

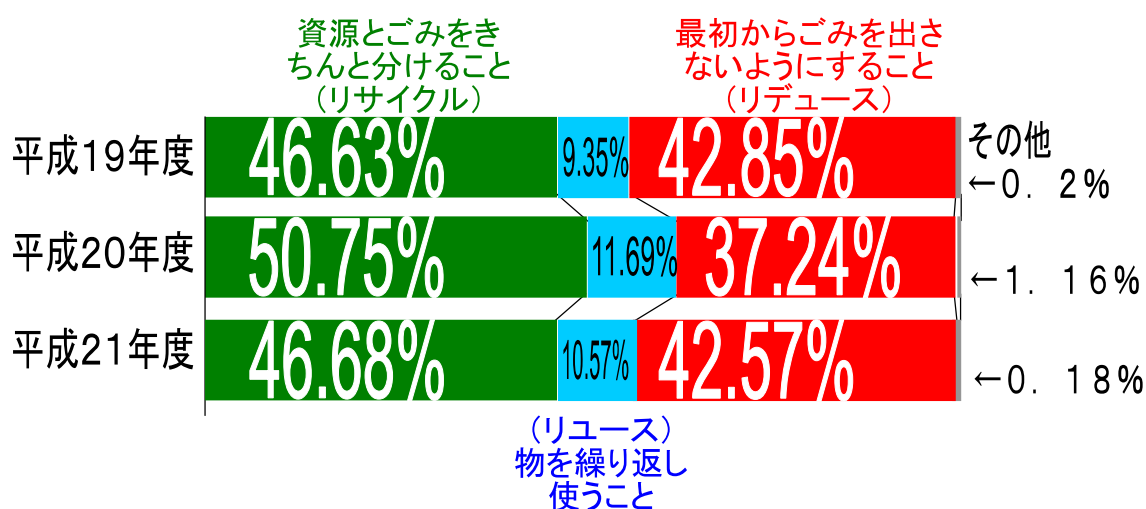
平成21年度ごみ減量月間（街頭キャンペーン） アンケート集計結果

平成21年度においては、区内15会場にて街頭キャンペーンとしてアンケートの実施とマイバックの配布を行い、ごみの減量を呼びかけました。

「ごみの発生抑制」意識の浸透状況について（有効回答者数 2,772）

問1 ごみを減らすために一番大切なことはどれだと思いますか。
いずれか1つに○をつけてください。

- 1. 資源とごみをきちんと分けること (1,312件) 46.68%
- 2. 物を繰り返し使うこと (310件) 10.57%
- 3. 最初からごみを出さないようにすること (1,192件) 42.57%
- 4. その他 (5件) 0.18%
その他の意見（企業もごみを出さないパッケージにするべき、生ごみを水切りする、野菜くずは植木などに使う等）

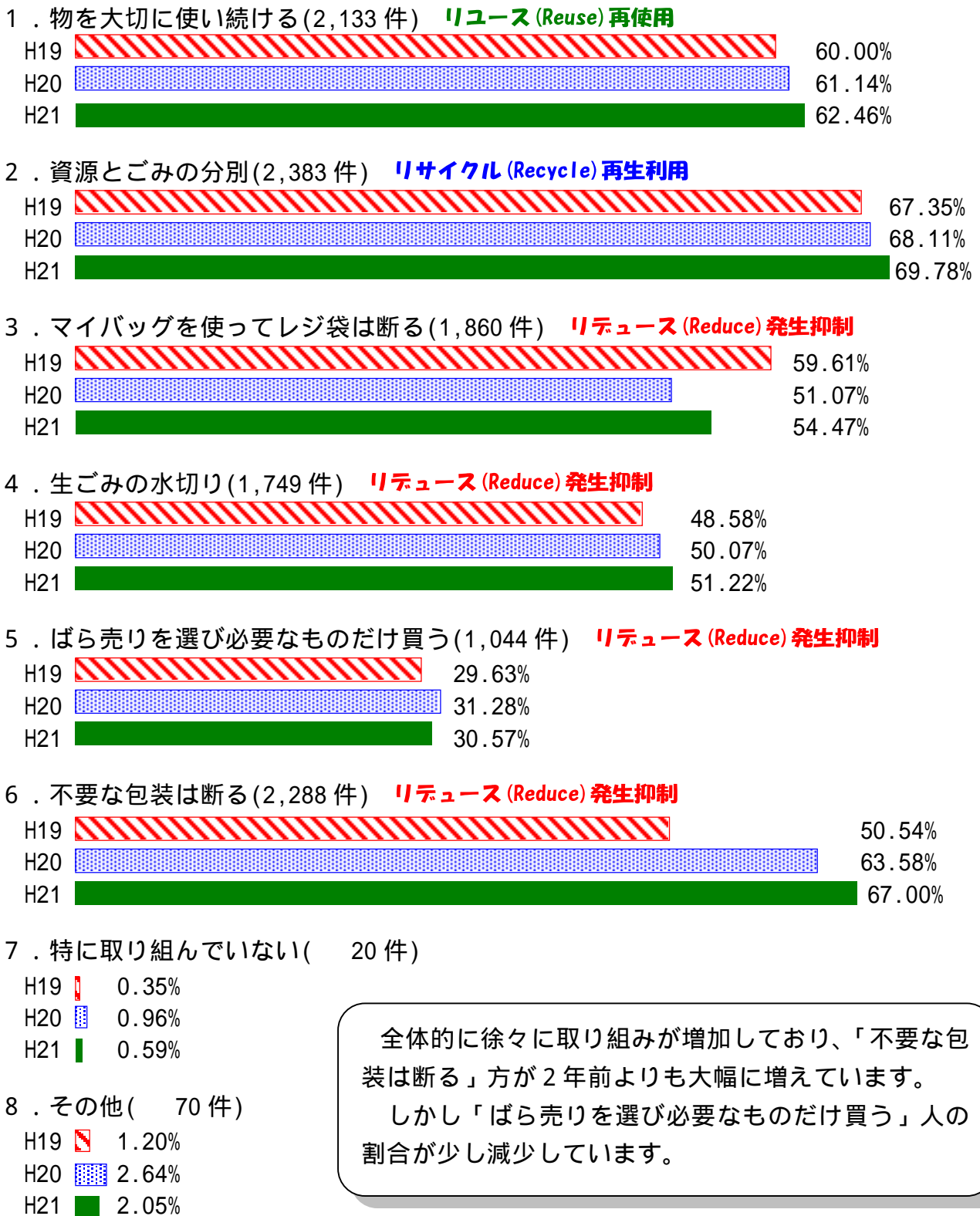


平成20年度より「最初からごみを出さないようにすること（発生抑制）」の割合が増えているが、依然として「資源とごみをきちんと分けること（リサイクル）」が一番多い結果となっています。

ごみの減量に一番大切な発生抑制の割合を高くするために、今後も積極的に啓発していく必要があります。

ごみ減量の取組状況について（有効回答者数 3,415）

問2 あなたは、ごみを減らすために日頃から何か取り組んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。



全体的に徐々に取り組みが増加しており、「不要な包装は断る」方が2年前よりも大幅に増えています。

しかし「ばら売りを選び必要なものだけ買う」人の割合が少し減少しています。

その他の意見（マイ箸を利用する、あったらいいな程度の物は買わない 等）

今後の取り組みについて（有効回答者数 3,328）

問3 ごみの減量やリサイクルを推進していくためには、どのような取り組みに重点を置いていく必要があると思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．イベントやキャンペーンの実施(1,607件)



2．ホームページやFM放送などを使ったPR活動(563件)



3．事業者による自主的な活動の促進(1,944件)



4．地域における自主的な活動の促進(1,944件)



5．その他(88件)



その他の意見 一人ひとりの心掛けが大切
町会などの協力
レジ袋の有料化

ごみの分別種類を細かくする
学校教育・職場教育・家庭教育等
製造業の簡易包装 など

「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進を望む声徐徐に増える傾向にあり、イベントやキャンペーンなどのPRよりも、自主的な活動の促進が望まれている。

アンケート集計結果のまとめ

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、ごみの発生抑制を中心としたごみ減量の自主的な活動の推進やキャンペーンの実施、チラシの配布によるPR活動などを行ってきました。

アンケートの結果、「資源をきちんと分別する」などリサイクルに対する意識は依然として一番高いが、「最初からごみを出さないようにすること」である発生抑制についての意識も高くなってきています。

また、自ら行っている取り組みについては、全体として伸びている傾向ですが、マイバッグの利用については、一昨年の割合には届かず、「ばら売りを選び必要なものだけ買う」は全体の3割程度が続いており、区民の意識が伸び悩んでいるようです。

今後の取り組みに関しては、「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進を望む声徐徐に増える傾向にあり、その他の意見では「一人ひとりの心掛けが大切」という意見も数多く見受けられ、区民・事業者を問わず自主的な取り組みが大切という考え方が増えつつあるようです。

ごみの減量には「発生抑制」「再使用」「再生利用」の全ての項目での実施が必要です。

今後もあらゆる機会を通じて「発生抑制」に重点をおきつつも、「再使用」「再生利用」も含めたごみ減量の実践への意識啓発を図って行きます。

さらに、「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」を求める声が多いことから、事業者の皆さんへの積極的なごみ減量・リサイクルの取り組みを意識啓発していくとともに、区民の皆さんにも、マイバッグの利用や水切りの徹底による生ごみの減量など自主的な取り組みでごみの減量を行う意識を高めていくような啓発活動を行っていきます。

そして、区は様々な媒体を活用した呼びかけや、区民・事業者の活動への支援を行うとともに、活動の促進のために各方面への調整を行っていきます。